

飲水思源

町長 松岡市郎

キトウシからの展望は「北の平城京」!?

写真の町を宣言して25年目となる。

この25年目を大きくお祝いする計画はないが、最高に楽しんで来た、たこうという企画が実行されている。それが6月から10月までの長期間にわたり開催されている本町在住の写真作家、竹田津実氏の写真展「えぞ王国」森の写真展である。

竹田津氏が40年間にわたり撮り続けてきた写真約200点がキトウシ森林公園の森の中に展示されている。

写真展といえは一般的には室内が多く、写真に触れることは禁止されている。しかし、この森の写真展は写真に触れてもかまわないのである。竹田津氏は「子供が写真に触れないでいる姿を見て、触れることができ「展示」を考えていたという。

こんな考え方に共鳴したのが旧知の仲のデザイナー、三村淳氏と、森のプロデューサー、崎野隆一郎氏。「3人寄ればお酒」「よし、やろう」と決まったそうである。

情熱がすごい。何度も現地を見て、仲間とともに数日間をかけて展示した。仲間は、東京、栃木、茨城、小清水町、函館、旭川、そして地元東川町からも加わった。すごいパワー

である。濃い緑の中のさまざまな所に作品が展示されている。往復1・2キロメートルの森の中の動物園である。

「あつ、熊だ」「鹿の親子が...」。道内に生息している動物の写真が森の遊歩道に沿ってあちこちに展示されている。作品の近くへ行って触れてみることもできる。従来の展示を超えた作品展である。ぜひ見てほしい。

往路の最終展示場所、南展望台からの眺望がなんとも素晴らしいという。三村氏は、このポイントから見た大雪山連邦と、整然とした田園風景を見て「北の平城京」と絶賛した。家族や友人、知人とともに、森の緑に接し、うまい空気の中、写真を見ながら散策し、折り返し点で「北の平城京」といわれる絶景に感動し戻って来る。このぜいたくさを今月は楽しみたいと思っている。

キトウシ森林公園には結婚記念樹として植樹したエゾヤマザクラの林があり、その満開もまた素晴らしい。小動物も多く生息している。動・植物と自然のメツカでもある。大切にしたいものだ。

短歌

難病の夫を看取りある若き姪健気な笑顔に涙さそわる
溜め水にうす水張りし朝なり収穫さかりのアスバラの惨
ぼつりと膨らむお腹の孫の嫁そつと撫でつつ無事生まれよと
ばつと咲き甘き花満つ桜花一夜の風に散りぎわ見せず
明日あると信じて拝む入日なり健やかなれば幸せとして
点滅の黄信号くぐる夕間暮れ少しあやふき未来か知れず
人の世の起伏のり越え八十年唯々月に雲のうごくを
晴天に大樹の桜誇らしく見事に咲きて夫と眺める
しみじみとわが残生を思いをりれんげつじの炎えさかる時
夫を呼ぶ吾が声のみの夢さめてたとえようなき静寂の窓

松倉和子
矢沢ますえ
永江栄子
嶋崎ミエ
中田治子
宮坂敬子
笹田富士子
岡澤チズ子
清水チヨ
瓜生昭枝

俳句

あいまいな記憶の底に青茫
雲海に抱かれ寝むるお湯の街
大志をば誓いし山や青茫
ハンモック見た目ほどには眠られず
近寄れぬ水面静かや青茫
佇めば病葉岸に流れ寄る
雲海の飛翔に寄りそう戻りかけ
鮭の稚魚放てばどつと村生きる
浮遊する乙女の心青茫
田植晴おやつ車座の三世代
ハンモック 鰭をおさめて魚となり
うかうかと帽子奪わる初夏の風
夢見つつほえむ孫のハンモック
反抗期背伸びしている青茫

石澤清宏
澤田久美子
松山蓉子
三島智
長谷川きみゑ
小林露葉
青野公花
宮坂紫雲
秋山深雪
杉山ひろのり
徳光吐苦
杉山りつ
山口佐知子
高瀬潤